



平成28年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年1月28日

上場会社名 株式会社ボルテージ

上場取引所 東

コード番号 3639 URL <http://www.voltage.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 横田 晃洋

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部管轄

(氏名) 松永 浩

TEL 03-5475-8193

四半期報告書提出予定日 平成28年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年6月期第2四半期の連結業績(平成27年7月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第2四半期	5,653	8.3	213	835.6	202	274.5	100	—
27年6月期第2四半期	5,221	7.9	22	△91.4	53	△81.6	△7	△106.4

(注) 包括利益 28年6月期第2四半期 95百万円 (264.8%) 27年6月期第2四半期 26百万円 (△78.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年6月期第2四半期	19.46	19.25
27年6月期第2四半期	△1.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年6月期第2四半期	4,997	3,812	76.3
27年6月期	4,999	3,789	75.4

(参考) 自己資本 28年6月期第2四半期 3,812百万円 27年6月期 3,771百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年6月期	—	0.00	—	15.00	15.00
28年6月期	—	0.00	—	—	—
28年6月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成28年6月期の配当予想は未定としております。

3. 平成28年6月期の連結業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,500	8.5	800	71.2	800	64.8	400	72.0	77.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年6月期2Q	5,180,770 株	27年6月期	5,155,067 株
② 期末自己株式数	28年6月期2Q	228 株	27年6月期	228 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年6月期2Q	5,165,992 株	27年6月期2Q	5,121,789 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続く中で、企業収益は改善しました。また、個人消費は、消費者マインドの持ち直しに足踏みが見られるものの、実質総雇用者所得は持ち直しており、総じて底堅い動きとなっております。

モバイルビジネスを取り巻く環境は、スマートフォン契約比率(注1)は、平成27年3月末に構成比54.1%となっております(注2)。また、ソーシャルゲーム市場規模は、成長率に鈍化は見られるものの、平成29年には9,489億円まで成長する見込みとされております(注3)。

このような環境の下、当社グループは、「恋愛と戦いのドラマ」をテーマとしたコンテンツ作りを追求し続けるとともに、中期戦略として、日本語版恋愛ドラマアプリのノウハウを英語版恋愛ドラマアプリ及びサスペンスアプリへ展開することで、ターゲット市場の拡大を図っております。当期は、日本語版恋愛ドラマアプリの新規ユーザー獲得及び既存ユーザーのARPPU(注4)向上、英語版恋愛ドラマアプリの注力路線の絞り込み、サスペンスアプリの新規タイトル投入と、KPI向上により、さらなる収益の拡大に努めてまいります。

当第2四半期連結累計期間における売上は、日本語版恋愛ドラマアプリのF2P(注5)は、前年同期比でソーシャル専門PF(注6)向けが大幅に減少しましたが、OS系PF(注7)向けが大幅に増加し、計画比でも若干増加しました。P2P(注8)は、前年同期比でOS系PF向け及びキャリア公式PF(注9)向けが大幅に減少し、計画比でも若干減少しました。全体では、4,787,388千円(前年同期比8.4%増)となりました。

英語版恋愛ドラマアプリは、L10N(注10)は前年同期比で大幅に増加し、計画比でも若干増加しました。DRAGON(注11)は、第1四半期にシリーズ初となるタイトルを投入し、計画比で若干増加しました。US REAL(注12)は、新規タイトルの制作テスト中であり、前年同期比及び計画比で減少しました。全体では、861,392千円(前年同期比36.5%増)となりました。

サスペンスアプリは、新規タイトルを投入しましたが、初期継続率が想定を下回ったこと等により前年同期比及び計画比で大幅に減少し、4,263千円(前年同期比97.5%減)となりました。

以上により、売上全体では、前年同期比で増加し、計画比で若干増加しました。

費用は、人員増加による労務費の増加、OS系PF向け売上の増加に伴う販売手数料の増加等がありました。外注費は、名作IP(注13)タイトルのロイヤリティ増加及びコンテンツ数の増加による制作費の増加により前年同期比で大幅に増加しましたが、制作費を効率的に使用したこと等により計画比では大幅に減少しました。広告宣伝費は、モバイル広告を抑えるなど効率的に使用し前年同期比で大幅に減少しましたが、第1四半期に行ったテレビCMの追加出稿等により計画比では大幅に増加しました。

以上により、費用全体では、前年同期比及び計画比で若干増加しました。

営業利益及び経常利益は、売上の増加が費用の増加を上回ったことにより、前年同期比で大幅に増加し、計画比で若干増加しました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、米国の連結子会社(Voltage Entertainment USA, Inc.)における広告出稿の一部後ろ倒しによる費用減少等により、前年同期比及び計画比で大幅に増加しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は5,653,043千円(前年同期比8.3%増)、営業利益213,865千円(前年同期比835.6%増)、経常利益202,208千円(前年同期比274.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益100,513千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失7,216千円)となりました。

当第2四半期累計期間の主な取り組みは、以下の通りであります。

(日本語版恋愛ドラマアプリ)

F2Pは、既存タイトル「LINE 悪魔と恋する10日間 Heaven's Kiss」が低調に推移しましたが、「天下統一恋の乱 Love Ballad」「ダウト～嘘つきオトコは誰?～」「王子様のプロポーズII」等が好調に推移しました。ユーザー獲得施策は、平成27年11月に「ダウト～嘘つきオトコは誰?～」のテレビCMを出稿し、計画を上回る効果を得られました。

P2Pは、新規タイトル「新選組が愛した女」が好調に推移しましたが、「恋愛上等!イケメン学園」が低調に推移しました。また、既存タイトル「教師たちの秘密の放課後」「上司と秘密の

2LDK」等が好調に推移しましたが、その他の一部タイトルが低調に推移しました。ユーザー獲得施策は、平成27年12月にコンテンツ横断イベントを実施しました。

(英語版恋愛ドラマアプリ)

L10Nは、既存タイトル「Gossip Girl: PARTY Style Your Love (注14)」「Kissed by the Baddest Bidder (注15)」「My Forged Wedding:PARTY (注16)」等が好調に推移しました。ユーザー獲得施策は、平成27年11月中旬より、新規広告媒体への展開を行いました。

DRAGONは、「Astoria: Fate's Kiss」の広告出稿の後ろ倒し等があったものの、KPIは概ね堅調に推移しました。また、第1四半期に引き続き、2アプリ目の制作に取り組みました。

US REALは、引き続き「Kisses & Curses」の北米への本格展開に向けた制作に取り組みました。また、段階的に実施したテストリリースでは、ノルウェーにおいてカテゴリ (注17) ランキング第1位を獲得するなど、一定の成果が得られました。

(サスペンスアプリ)

収集・育成要素を含む新規タイトル「六本木サディスティックナイト」のiOS版を投入し、初期KPIの分析・改善を行いました。また、Android版の投入や、本格プロモーション展開に向けた準備を行いました。

- (注) 1. スマートフォン契約比率：スマートフォンとフィーチャーフォンを合わせた端末総契約数に占めるスマートフォンの割合
2. 出所：株式会社MM総研「スマートフォン契約数および端末別の月額利用料金・通信料」 2015年6月11日発表
3. 出所：野村総合研究所「ITナビゲーター2016年版」 2015年12月10日発行
4. ARPPU：Average Revenue Per Paid Userの略称。課金ユーザー1人あたりの平均売上金額
5. F2P：Free-to-Playの略称。基本プレイ無料・アイテム課金制のコンテンツ
6. ソーシャル専業PF：GREE、Mobage、mixi、Ameba等のSNS PF
7. OS系PF：App Store、Google Play等のアプリマーケット
8. P2P：Pay-to-Playの略称。ストーリー単位の個別課金制のコンテンツ
9. キャリア公式PF：NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイルが運営するサイト
10. L10N：北米市場向けアニメ絵であり、日本語版恋愛ドラマアプリを翻訳したコンテンツ。Localizationを意味する省略表記
11. DRAGON：北米市場向けアニメ絵であり、北米市場向けに作ったコンテンツ。北米向けにアレンジされたドラゴンロール寿司に由来。対ユーザー呼称AmeMix(アメミックス)
12. US REAL：北米市場向けリアル絵のコンテンツ(旧：USオリジナル)
13. 他社の知的財産を用いたタイトル
14. 邦題：「ゴシップガール～セレブな彼の誘惑～」 15. 邦題：「スイートルームで悪戯なキス」
16. 邦題：「誓いのキスは突然に」
17. 「Google Play Top App Charts Grossing Entertainment」 2016年1月6日時点 (App Annie調べ)

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、4,997,781千円(前連結会計年度末比1,503千円減)となりました。

流動資産は、3,635,994千円(前連結会計年度末比51,802千円減)となりました。その主な要因は、現金及び預金が163,676千円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、1,361,787千円(前連結会計年度末比50,298千円増)となりました。その主な要因は、無形固定資産が81,022千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

負債は、1,185,130千円(前連結会計年度末比24,419千円減)となりました。

流動負債は、1,185,130千円(前連結会計年度末比24,419千円減)となりました。その主な要因は、その他にて、未払消費税等が24,315千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は、3,812,651千円(前連結会計年度末比22,915千円増)となりました。その主な要因は、利益剰余金が23,191千円増加したこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して163,676千円減少し、1,656,881千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払99,615千円等があったものの、税金等調整前当期純利益202,208千円、ソフトウェア償却費124,870千円、減価償却費及びその他の償却費85,419千円等があり、175,657千円の資金を得る結果（前年同期は14,853千円の資金を支出する結果）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、コンテンツシステム開発等に伴う無形固定資産の取得による支出203,270千円、敷金及び保証金の差入による支出37,340千円等により、261,250千円の資金を支出する結果（前年同期は376,435千円の資金を支出する結果）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、新株の発行による収入1,987千円があったものの、配当金の支払76,147千円があったことにより、74,160千円の資金を支出する結果（前年同期は95,709千円の資金を支出する結果）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、引き続き、「恋愛と戦いのドラマ」をテーマとしたコンテンツ作りを追求し続けるとともに、平成28年度6月期第3四半期は、以下の取り組みを行ってまいります。

1. 日本語版恋愛ドラマアプリ

「ダウト～嘘つきオトコは誰?～」のシーズン2の制作を行い、テレビCMを本格展開するほか、新機能を実装したF2P新規タイトル「2LDK（仮称）」を投入し、目標KPIの達成を図ります。また、引き続きVIPアイテムの投入に向けた開発、キャラ推し新シリーズのベータ版の開発を行ってまいります。

2. 英語版恋愛ドラマアプリ

DRAGONシリーズ2アプリ目を投入し、目標KPIの達成を図るほか、US REAL F2P新規タイトル「Kisses & Curses」の北米への本格展開を行ってまいります。

3. サスペンスアプリ

第2四半期に引き続き、「六本木サディスティックナイト」のKPI向上を図りながら、Android版の投入や、本格プロモーション展開を行ってまいります。

以上により、平成28年6月期の連結業績予想は、平成27年8月13日付の「平成27年6月期 決算短信[日本基準]（連結）」で公表した内容から変更なく、売上高11,500百万円（前年同期比8.5%増）、営業利益800百万円（同71.2%増）、経常利益800百万円（同64.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益400百万円（同72.0%増）を見込んでおります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,820,557	1,656,881
売掛金	1,722,355	1,805,437
前払費用	68,877	122,930
繰延税金資産	69,141	47,323
その他	8,302	4,823
貸倒引当金	△1,438	△1,401
流動資産合計	3,687,796	3,635,994
固定資産		
有形固定資産	343,195	280,168
無形固定資産		
ソフトウェア	555,946	636,968
無形固定資産合計	555,946	636,968
投資その他の資産	412,347	444,650
固定資産合計	1,311,488	1,361,787
資産合計	4,999,285	4,997,781
負債の部		
流動負債		
買掛金	194,332	212,164
未払金	5,979	5,764
未払費用	756,669	748,004
未払法人税等	108,617	93,501
賞与引当金	-	6,060
その他	143,951	119,636
流動負債合計	1,209,549	1,185,130
負債合計	1,209,549	1,185,130
純資産の部		
株主資本		
資本金	922,314	933,638
資本剰余金	887,914	899,238
利益剰余金	1,897,942	1,921,133
自己株式	△196	△196
株主資本合計	3,707,975	3,753,814
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,629	1,897
為替換算調整勘定	61,053	56,939
その他の包括利益累計額合計	63,682	58,836
新株予約権	18,077	-
純資産合計	3,789,735	3,812,651
負債純資産合計	4,999,285	4,997,781

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
売上高	5,221,852	5,653,043
売上原価	1,895,122	2,153,646
売上総利益	3,326,730	3,499,397
販売費及び一般管理費	3,303,870	3,285,532
営業利益	22,859	213,865
営業外収益		
受取利息	333	348
受取配当金	55	86
助成金収入	330	8,643
為替差益	28,957	-
雑収入	1,501	687
営業外収益合計	31,177	9,766
営業外費用		
為替差損	-	21,423
雑損失	50	-
営業外費用合計	50	21,423
経常利益	53,987	202,208
税金等調整前四半期純利益	53,987	202,208
法人税、住民税及び事業税	61,401	81,464
法人税等調整額	△197	20,230
法人税等合計	61,204	101,695
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△7,216	100,513
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△7,216	100,513

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△7,216	100,513
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,453	△732
為替換算調整勘定	31,988	△4,113
その他の包括利益合計	33,441	△4,845
四半期包括利益	26,224	95,668
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	26,224	95,668

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	53,987	202,208
減価償却費及びその他の償却費	69,696	85,419
ソフトウェア償却費	98,530	124,870
賞与引当金の増減額 (△は減少)	8,453	6,060
株式報酬費用	10,375	2,582
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2,252	△36
受取利息及び受取配当金	△388	△435
為替差損益 (△は益)	△16,439	1,090
売上債権の増減額 (△は増加)	135,684	△83,006
仕入債務の増減額 (△は減少)	27,272	17,853
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△32,932	△31,508
未払費用の増減額 (△は減少)	△48,038	△8,321
その他	△10,350	△41,940
小計	293,597	274,837
利息及び配当金の受取額	388	435
法人税等の支払額	△308,839	△99,615
営業活動によるキャッシュ・フロー	△14,853	175,657
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△108,100	△20,640
無形固定資産の取得による支出	△201,742	△203,270
敷金及び保証金の差入による支出	△66,592	△37,340
投資活動によるキャッシュ・フロー	△376,435	△261,250
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	670	1,987
配当金の支払額	△96,379	△76,147
財務活動によるキャッシュ・フロー	△95,709	△74,160
現金及び現金同等物に係る換算差額	45,003	△3,922
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△441,994	△163,676
現金及び現金同等物の期首残高	2,201,178	1,820,557
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,759,183	1,656,881

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。